第119号　平成30年12月12日 発行

- 第27回中国腎不全研究会学術集会発表報告
- 第20回フォーラム発表報告
- 院内サークル活動報告
- 安全Topics

IWAKUNI MEDICAL CENTER

地域医療支援病院

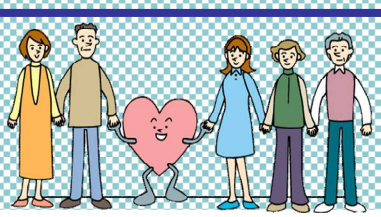
岩国市医療センター医師会病院だより

http://iwakuni-med.jp

岩国市医療センター医師会病院
〒740-0021
岩国市室の木町３丁目６－１２
☎（0827）21-3211（代表）
E-mail：info@iwakuni-med.jp

第27回　中国腎不全研究会学術集会

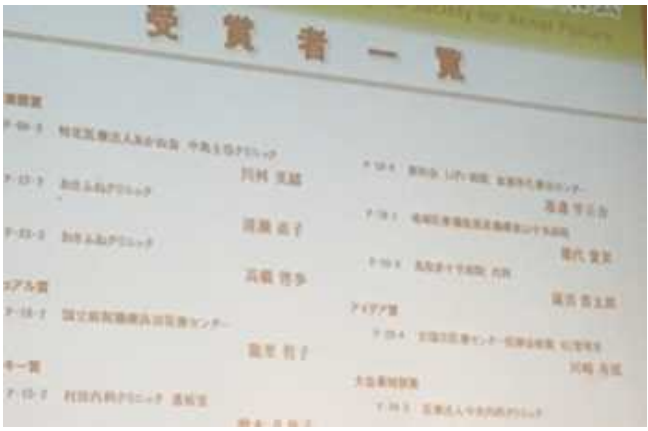
日時　　2018年11月3日(土)～4日(日)
場所　　広島国際会議場



2018年11月3日～4日に『第27回　中国腎不全研究会学術集会』が開催されました。

中国5県の透析に関わる施設が、様々な着眼点で研究の成果を発表する場であり、当院透析室からは2題のポスター発表をエントリーしました。

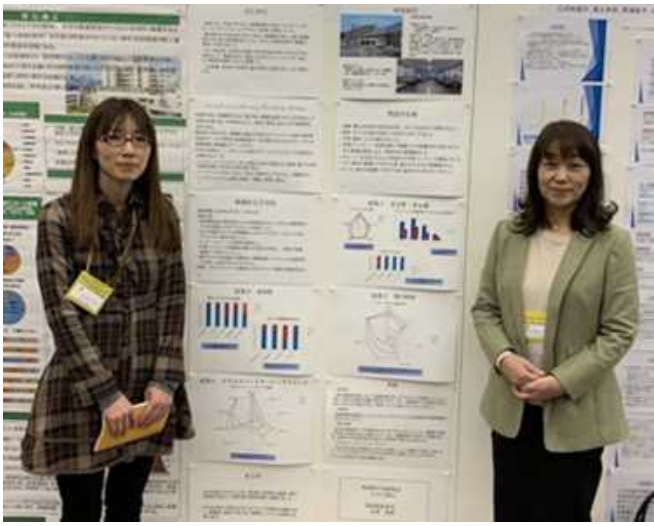
技士部門では　**川﨑寿郎　臨床工学技士**が、**【レーダーチャートを使用したドライウエイトの管理方法】**について、発表を行いました。



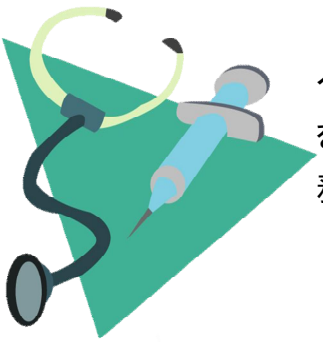
また看護部門では　**小澤伸枝 看護主任** が、**【PNSを取り入れた 透析室業務の改善】**について発表しました。

発表時間4分・質疑応答時間2分の、計6分間という短い時間の中に、当院の活動と日頃の成果をまとめ、他施設の皆さんに伝わるようまとめる事に大変苦労しました。

140演題のポスター発表の中から、大会長らにより**ポスター賞**（大会特別賞1題・優秀演題賞6題・ビジュアル賞1題・アイデア賞1題・ルーキー賞1題）が選考され、**技士部門の演題がアイデア賞（ユニーク・アイデア性に優れた演題に送られる賞）を受賞しました！**



研究会では他に、『患者に応じた自由度の高い治療選択と地域他職種連携』をテーマとしたシンポジウムや、ワークショップ、交流会が行われました。



今後も引き続き、学会・研究会等への参加を通して透析医療の知識を深め、研鑽を重ねて、日々の業務に活かしていきたいと思います。

（文責：透析室師長　宮本 みどり）

第20回フォーラム
「医療の改善活動」全国大会 in 北九州
原点回帰から未来へ　～職員の元気を患者の幸せのために～

日　時　　2018年11月16日(金)～17日(土)
場　所　　北九州市ウェルとばた
主　催　　一般社団法人　医療のTQM推進協議会
大会長　　製鉄記念八幡病院　病院長　土橋 卓也

昨年は松山市、今年は北九州市で開催され、来年は仙台で開催されます。今回、約700名が全国から集い、日々の改善活動報告をしました。

今年は趣向が変わり、「地域包括医療」「薬剤部プロセス」のシンポジウムやスーダンで医師として活躍中の川原尚行先生の講演、ランチョンセミナーがありました。少子高齢多死社会を迎え、人が生きることややりがいについて原点を考えさせられる機会になりました。
交流会では、理事長の安藤廣美先生と改善活動の面白さや奥深さについてお話ができ、うれしかったです。交流会での催しは、医師も参加されている小倉祇園太鼓が披露されました。医療者が住民とつながる場を持つことの大切さを感じ、地域医療を支えるというのはいろいろな方法があるなあと思いました。

当院の発表は残念ながら、入賞することはできませんでしたが、リベンジします。

常備薬『欲しいものが、欲しい時に、すぐに手に入ると、常備薬はまた増える危機がある！』
管理する仕組みは必要です。

『病棟の常備薬を減らそう第２弾
～必要な注射薬を必要な分だけ必要なところに配置するためには～』
ＡＫＳナイン（医療安全管理室）安永 彰子

シンポジウム：薬剤部プロセス
『退院患者における施設間連携の取り組み』
薬剤部副部長　中川 哲志

『診断書作成業務の質向上！！』
医事レンジャー（医事課）丸重 礼奈・村中 里江

今回、初めて参加させて頂き、他の医療機関の様々な改善活動の発表を聞くことができました。
受賞とはなりませんでしたが、また発表することができるよう、気持ちを新たに改善活動に取り組んでいきたいです。

自転車部

石村 将人

自転車部では自転車好きや軽く運動してみたい、興味があったといった人が集まり、４月より院内サークルとして発足し活動を始めました。特に活動の決まりは無く、月に1～2回好きな時に声を掛け合い、岩国や広島を中心に楽しんでいます。目的も紅葉狩りや花見などの観光から、スイーツなどを目的とした食を楽しむものまで様々です。

年齢層も幅広く、今年は4月に入った若い力もあり、より一層活気づきました。毎年数回イベントに参加し、近くは大島で行われる「サザンセトロングライド」や下関で開催された「ツールドしものせき」があり距離は個人の体力や気分に合わせてエントリーしています。参加はクロスバイクやロードバイクなどのスポーツバイクが主ですが、持っていない方でもイベントによってはレンタルサイクルがあるので気軽に参加できます。

現在、瀬戸大橋を舞台に行なわれる「グラン・ツール・せとうち2019」の申し込み期間中であり既に数名の参加を予定しています。レースではなく、途中休憩を取りながら行われる楽しみながら完走を目指したものです。興味のある方は是非声をかけてもらえたらと思います。

さて、私たちは前回11月24日（土）に「ながとブルーオーシャンライドwith秋吉台」に9名で参加をしました。場所は長門市や美祢市、下関市豊田町で開催され、サイクリングコース（116ｋｍ）・トレインコースミドル（８４ｋｍ）・トレインコースショート（５１ｋｍ）の3つにエントリー。約２０ｋｍ毎にエイドステーションと呼ばれる休憩所も設けられ、そこでは振る舞われるご当地の食事などを楽しむことができます。

当日の朝は肌寒さがありながらも快晴で、絶好の自転車日和。朝７時受付、8時半には出発という早めのスケジュールである為、少しの眠気を我慢しながら「ヘルメットは持った？」「ゼッケンを付けてー」「飲み物忘れた！」とバタバタしながら準備をすませ、スタートラインにみんなで集まり開会式に参加しました（写真はスタート前の茶川院長。表情がかたく少し緊張気味？と思っていたら開会の挨拶が長く時間が押している事を気にしていたとの事）。

スタートはコース毎に6人が２０秒間隔で順次スタートし、ガイドの指示や案内板に従いながらみんなで縦に並んで長門の街中を進んでいきます。一般道を走るため他の車に注意し、信号もあり何度か止まりながら走ります。始めこそ平坦な道が続きましたが、途中からは山・山・山。終盤挫けそうになりながらも、皆で声を掛け合いながら、エイドステーションで出される料理やお菓子を楽しみに頑張ります。秋吉台では青い空と一面広がるカルスト台地の中を気持ちよく走り抜けました。途中、プロのロードバイクチームやパラリンピック世界チャンピオンの方とも話しながら進むなど楽しいイベントとなりました。私の参加したトレインコースでは、ゴールした後はスタート地点まで電車で戻るコースとなるため、電車の中で景色を見ながらおいしいうな丼を頂き戻りました。

非公認釣りクラブ「大島塾マスターズ」の紹介

福田 雅通

主な活動は年に2回春秋の五島列島への釣行と不定期の飲み会。メンバーは筆者、透析室向根技師長、連携室木村主任、かつて当院に勤務していた作村医師、谷川医師、重安看護師、およびその他数名の友人たち。行先は毎度お約束の上五島市六島（むしま）。とても魚影の濃いところで主なターゲットは真鯛、グレ、イサキ、アオリイカ、アコウ、時には大型のブリやヒラメが釣れたこともあります。平成23年からは釣行後に新聞を作って思い出を残しています。自慢の魚や失敗談、釣魚料理など内容はけっこうディープです。最近の新聞は病院ＨＰのブログにも掲載されていますのでよろしければご覧ください。最新号から一部抜粋して紹介します。

＜19時、ムスビと味噌汁の夕食をとっているとぽつぽつと音がした。見上げれば厚い雲が上空を覆い、予報になかった雨が落ちてきた。通り雨であることを願ったが雨あしは強まり、向根さんはテントに避難した。すまなそうに「私も入れてくれませんかぁ」とお願いすると彼は快く招き入れ、温かい焼酎ともつ煮込みの缶詰でもてなしてくれた。かつて「ずぶ濡れマッチ売り向根」だの「蚊帳テント」（第10号、11号参照）だの散々愚弄した筆者をこんなにやさしくもてなしてくれるなんて。本号では感謝を込めて「向根さん」と敬称をつけることにした。テントの中の温かい焼酎は美味だったが、もしガスコンロの火が燃え移ったら「中年男性二名、五島の磯の上、テントで焼死」、あさっての新聞ネタじゃね、などと笑いながら一人用テントの中で記念写真を撮っていたら徐々に雨音が遠のいてきた。向根さんのご厚情にお礼をいって仮眠を取るべく寝床に戻ると、そこには上がってこないはずの潮が。筆者の寝袋がぷかぷか浮いていた。寝袋ずぶ濡れ。時刻は21時、このとき筆者は「今夜は寝ないで釣る」と覚悟を決めた。＞

続きはブログをご覧ください。それから昨年作った部歌「魚釣り祭り」もアップしていますのでどうぞお聞きください。

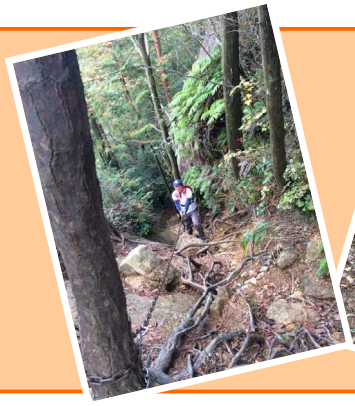
http://iwakuni-med.jp

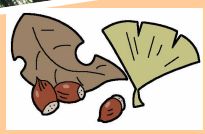
六島の神様とお供の猫たち

あるき隊活動報告（三倉岳 編）

大竹市の北部にある三倉岳に登ってきました。三倉岳は三本の槍の岩峰であり、山麓からの景観は素晴らしく、右の低い方から朝日岳(上ノ岳)、中ノ岳、夕陽岳(下ノ岳)と呼ばれています。三倉の名称は人生の三要事である 福(上ノ岳)、徳(中ノ岳)、寿(下ノ岳)を象徴する倉がそろっていることからつけられたそうです。

台風のため9月30日(日)の登山は10月27日(土)の午後からに変更となりました。そのためあるき隊会長の茶川院長、副隊長の浴森看護部長などは欠席となりました。院内にも募集しましたが参加申し込みはなく、貴船隊長と隊員2名の計３名の寂しいあるき隊となりました。





午後2時に登山口の山小屋で入山届けを出すと、管理人より「往復で3時間。今から登ったら帰着は日暮れまでぎりぎり。」と言われましたが、登山を決行しました。その理由は次の週末に1泊での英彦山登山を予定しており、その前に足慣らしをしておく必要があったからです。この山に登るのは全員初めてだったため、初心者に推奨のBコースを選択し登り始めました。途中で下山してくる人達には何度も出会いましたが、登る人には出会うことはありませんでした。先頭を歩く隊長は帰りの時間も考えピッチを早めて登りました。登山道は整備されていましたが石段は一段が大きかったり小さかったりと一定の歩幅や一定のペースで歩くのが難しく、下肢を大きく持ち上げる必要のある段も随所にありました。ピッチを上げたせいもあり、4合目付近で既に大腿を持ち上げる腸腰筋や膝を伸ばす大腿四頭筋に疲労が来ていました。足を持ち上げても十分に上がっていなかったり、大きな段では体を上の段に移動するのに膝に手をついて支えるか、周囲の木の枝や足元の岩に手をかけて登るしかできなくなりました。息も上がりこれで頂上までたどり着けるのだろうかと感じるほどでした。そして、つくづく普段の運動不足を痛感した次第です。5合目を過ぎると隊員①が「私はこのペースで上がるのは無理。先に行って。私はここで待っているから。」とギブアップ宣言。そのため隊員①を残し、二人で登山を続けることになりました。片道7kmを毎日自転車通勤する隊員②は全く疲れ知らずで、登るピッチは全く落ちずどんどん先に進んで行きました。一方で脚にきて膝が笑っていた隊長はなんとかその後を追いかけ、時々待っていてもらうという情けない状況でした。それでも登り始めて1時間ほどで朝日岳(上ノ岳)に到着。山頂の岩の上に上がりましたが、怖くて岩の上に立つことはできず、またがったままでの写真撮影となりました。休んだ後は脚の疲労も多少回復し、次の目的地である中岳へ向かいました。朝日岳と中岳の間の鞍部を進み、陰気な谷の中の鎖場を慎重に登るとそこは中岳のピークです。そこからの眺望は最高で、右手(西)に夕陽岳、眼下に栗谷盆地、左手(東)に朝日岳の岩稜、北東には大峰山と素晴らしい景観が広がります。ただ時間的には太陽は傾いておりグレイタワーと言われる夕陽岳方向は逆光でインスタ映えする写真は撮れませんでした。

次は一番高い夕陽岳(701m)に向かいたかったのですが、7月6日の豪雨の後からは夕陽岳山頂へ登る鎖場は閉鎖されたままになっていました。そのため三岳を周回することができず、来た道を引き返しました（Aコースを選択すれば夕陽岳だけ登ることができます）。結局、急いで登ったため、午後4時半までには山小屋に戻ってくることができました。次の週の英彦山登山に備えた足慣らしでしたが、隊長は登山の翌日から3日間ほどは階段を降りる際の臀部や大腿の筋肉痛に悩まされました。

（次回は　英彦山登山 編）

（文責　貴船 雅夫）

安全Topics

私たちは、平成29年11月に「医療者と患者とのパートナーシップを高め、在宅でも安心な生活が送れるような安全啓発をすすめる活動をする」事を目的に発足した患者安全啓発小部会です。メンバーは9名で、現在、転倒予防についての啓発活動に取り組んでいます。今回は『筋力低下を予防する食事』についてご紹介します。

患者安全啓発小部会

身体づくりは食事から～必要ｴﾈﾙｷﾞｰ知ってますか～

- 今の値は？

身長　　m	体重　　kg

- 標準体重を計算しましょう

[　　m] × [　　m] × 22 ＝ 標準体重 [　　Kg]

- BMI(体格指数)＝体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))
  ※低栄養の目安は20以下　(健康日本21より)

- 必要エネルギーを計算しましょう

標準体重 [　　Kg] × 28 ～ 30 ＝ 必要ｴﾈﾙｷﾞｰ [　　kcal]

元気に長生きするための食事～意識してとれてますか～

★体作りの基本はエネルギーとたんぱく質です

岩国市医療センター医師会病院 外来診療担当医師

(午前中のみ)　　平成３０年１２月１日現在

	月	火	水	木	金	土	
総合診療科	木村 一紀 (午前)						＊毎週月曜日(**9時～12時半**)は 木村 一紀 が診療を行っています
消化器内科 （肝臓）			川口 憲二	川口 憲二			＊救急と予約診療以外は **午前中** にお願いします
糖尿病内科 血液内科				佐々木 輝昌			＊毎週木曜日(**9時～16時半**)は 佐々木 輝昌 が 外来診療を 行っています ＊糖尿病教室は、毎週月・木曜日、第2･4金曜日の15時から行っています
腎臓内科	福田 雅通	福田 雅通		福田 雅通	福田 雅通	福田 雅通	＊血管造影は、金曜日の午後に行っています
泌尿器科			田原 正則 (午後)				＊毎週水曜日(**13時半～16時半**)は 田原正則が診療を行っています
小児科	福田 雅通	古賀 まゆみ	休　診	福田 雅通	古賀 まゆみ	福田 雅通	
緩和ケア内科		中藤 嘉人 (午前)	中藤 嘉人	中藤 嘉人 (午前)			＊初診の場合は、必ず **予約**が必要です
ﾍﾟｲﾝｸﾘﾆｯｸ内科 麻酔科	熊野 健一 (午前) (再診のみ)	熊野 健一 (午前)			熊野 健一 (午前)	(第1･第3) 原田 英宜	＊毎週 火曜日・金曜日(**9時～12時半**)は、ﾍﾟｲﾝｸﾘﾆｯｸ(痛みの外来)を行っています 毎週 火曜日・金曜日は、予約も可能です 急患や火･金曜以外の診療については、医療連携室(**21-3225**)又は直接 熊野健一へお問い合わせください ＊毎月 第1･第3土曜日(**9時～12時半**)は、原田 英宜 によるﾍﾟｲﾝｸﾘﾆｯｸを行っています 毎月 第1･第3土曜日は完全予約制ですので医療連携室(21-3225)へ詳細はお問い合わせ下さい
脳神経内科			金谷 雄平 (午前)				＊毎週水曜日(9時～12時半)は 金谷 雄平 が診療を行っています(**対象年齢：16歳以上**) ＊完全予約制ですので医療連携室(21-3225)へ詳細はお問い合わせ下さい
整形外科	貴船 雅夫	貴船 雅夫	土田 聖司	土田 聖司	清水 元晴		＊救急と予約診療以外は **午前中** にお願いします
脳神経外科						(第1･第3) 末廣 栄一 (第2) 井本 浩哉	＊毎月第1･3土曜日(**10時～12時半**)**は** 末廣 栄一 が **外来診療のみ** 行っています ＊毎月第2土曜日(9時半～12時)は 井本 浩哉 が診療(**機能的脳外科**)を行っています(**要予約**) **＊変更になることがありますので、事前にご確認ください**
放射線診断科	交替	田辺 昌寛	横田 佐和	交替（午前） 岡田 宗正 (午後)	交替		＊完全予約制ですので、放射線科受付(**21-3224**)へ詳細はお問い合わせ下さい ＊火曜日・水曜日は、**診療対応(10時～16時)**で行っています ＊血管造影は、木曜日の午後に行っています
リハビリ科 **(午前中のみ)**	茶川 治樹	松本 彰紘	茶川 治樹	森脇 宣允	柳居 理絵子	森脇 宣允 木村 浩彰	＊初診の場合は、必ず **予約**が必要です
療育 **(午前中のみ)**	古賀 まゆみ	茶川 治樹	古賀 まゆみ	古賀 まゆみ	茶川 治樹	茶川 治樹	＊完全予約制ですので療育センター（**24-0168**）へ詳細はお問い合わせ下さい

※ 土曜日の午前中は、病院医師１名の当直体制となっています

※ 市外局番 ☎（0827）

★ 救急は、この限りではありません

★ 紹介状は必ずお持ち下さい

編集・作成：岩国市医療センター医師会病院 院内広報委員会